令和　　４年　７月　23日

い な ば 農 業 技 術 者 協 議 会

○事務局 【JAいなば営農指導課】

小矢部市赤倉９７　TEL67-8000

【西部支店】67-8200 【東部支店】67-8300

【南部支店】61-8900 【福岡支店】64-8600

○高岡農林振興センター　26-8480

**大豆管理情報　第４号**

**１　生育状況**

・えんれいのそら（単作）は、近年に比べ主茎長は長く、本葉葉数と1次分枝数は多くなりまし

た。

・えんれいのそら（麦跡）は、主茎長、本葉葉数、1次分枝数ともに近年並みとなりました。

・シュウレイは、単作では主茎長と1次分枝数が近年並み、本葉葉数は近年より多くなりまし

た。麦跡では近年より播種日が遅かったことから、生育量は近年を下回っています。

表１　生育状況（７月15日）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 品種　 | 播種日 | 主茎長(ｃｍ) | 本葉葉数 | 1次分枝数（本/株） |
| R4　えんれいのそら（単作） | ５/30 | 62.7 | 11.0 | 1.8 |
| R4　えんれいのそら（麦跡） | ６/11 | 33.0 | 6.7 | 0.2 |
| R4　シュウレイ（単作） | ５/30 | 46.8 | 9.3 | 0.8 |
| R4　シュウレイ（麦跡） | ６/13 | 30.5 | 6.1 | 0.3 |
| 近年　えんれいのそら（単作） | ５/27 | 47.5 | 8.3 | 0.7 |
| 近年　えんれいのそら（麦跡） | ６/10 | 31.9 | 6.1 | 0.4 |
| 近年　シュウレイ（単作、麦跡） | ６/５ | 38.9 | 6.5 | 0.8 |

※えんれいのそら（単作）はメルヘン展示ほ２か所の平均、えんれいのそら（麦跡）はメルヘン展示ほ１か所

の値、シュウレイ（単作）及び（麦跡）はメルヘン展示ほ各1か所の値

※近年値は全てR１～R３の平均（シュウレイについては、県の展示ほの集計に準じて、単作及び麦跡の平均）

**２　病害虫防除　 　基本防除は適期に２回、確実に行いましょう！**

**【基本防除】**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **防除時期　（目安）** | **剤型** | **対象病害虫** | **薬剤名** | **10aあたり****使用量** | **希釈****倍数** | **総使用****回数** | **収穫前****日数** |
| **１回目** | ８月上中旬**（８月６日から****15日頃）** | 粉剤 | 紫斑病カメムシ類、マメシンクイガ、ハスモンヨトウ　等 | トライトレボン粉剤DL | ３㎏ | - | ２回以内 | 14日前まで |
| 液剤 | 紫斑病 | トライフロアブル | 150mℓ | 水150 ℓ | 1,000 | ２回以内 | 7日前まで |
| カメムシ類、マメシンクイガ、ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ　等 | カスケード乳剤 | 37.5 mℓ | 4,000 |
| 　　 |
| **２回目** | ８月中下旬**（1回目から****10日後頃）** | 粉剤 | 紫斑病、マメシンクイガ、カメムシ類 | Zボルドートレボン粉剤DL | ３～４㎏ | - | ２回以内 | 14日前まで |
| 液剤 | 紫斑病、カメムシ類、マメシンクイガ、アブラムシ | アミスタートレボンSE | 150mℓ | 水１５０ ℓ | 1,000 | ２回以内 | 14日前まで |

※基本防除終了後に、ほ場内でカメムシが見られた場合には、９月に追加防除を行いましょう。

　ウコンノメイガ（随時防除）については、８月上旬にプレバゾンフロアブル５も利用できます。

（防除の要否や防除時期、薬剤などは、営農指導員等にご相談願います。）

裏面もご覧下さい

**３　青立ち防止のための畦間かん水と排水対策**

畦間と額縁排水溝を

連結し、排水を促進しましょう。



・収穫期に発生する青立ちは、大豆の生育量に対して莢が少ないと発生します。

　　莢が少なくなる主な原因のひとつは、土壌の乾燥によるものです。

　・９月上旬頃まで、開花期以降、３日以上晴天が続く場合は、積極的に

畦間かん水を実施しましょう（ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止めて、

速やかに排水しましょう）。

・畦間かん水をする場合は、その後の排水のために、事前に畦間と額縁排水溝の

連結や、連結部分の手直しを実施しましょう。

**４　雑草防除　 　　非選択性除草剤は、大豆にかからないように注意！**

・大豆ほ場にヒエやタデ等の雑草が残っている場合は、以下の除草剤を活用しましょう。

（散布にあたっては、吊り下げノズルが必要です）

・近年、帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類等の難防除雑草の発生が問題となっています。これらの雑草は、早期発見に努め、雑草が実を結ぶ前に防除を徹底しましょう。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **薬剤名** | **適用雑草** | **使用時期** | **10aあたり使用量** | **総使用回数** | **使用方法** |
| バスタ液剤 | １年生雑草 | 大豆本葉５葉期以降雑草生育期但し、収穫28日前まで（８月末頃まで） | 300～500ml（水100～150Ｌ） | ３回以内 | ①畦間・株間処理 |
| ダイロンゾル＋ザクサ液剤 | １年生雑草 | 大豆本葉５葉期以降雑草生育期但し、収穫28日前まで（８月末頃まで） | ﾀﾞｲﾛﾝｿﾞﾙ：100mlｻﾞｸｻ液剤：400ml（水100Ｌ） | 1回以内 | 1. 畦間・

株間処理 |
| ラウンドアップマックスロード | １年生雑草 | 雑草生育期但し、収穫前日まで | 200～500ml（水50～100Ｌ） | ２回　　　以内 | ②畦間処理 |

【大豆の生育期処理除草剤】



**正常な根（左）と感染した根（右）**

**↓**



②畦間処理

①畦間・株間処理

**↑葉の**

**退緑壊疽斑**

大豆にかからない

よう十分に注意

大豆の本葉にかから

ないよう十分に注意

難防除雑草の

アオゲイトウ（ヒユ類）

**５　黒根腐病について**

・黒根腐病は、土壌伝染性の重要病害です。症状は、葉の退緑壊疽斑や地際部の子嚢殻が見られま

す。また重症個体の根は側根がなく、ゴボウ状になります。

・連作のほ場や排水不良のほ場で発生しやすく、病原菌は長期的に土壌中に潜伏します。

・感染しても、治療薬はありません。排水対策の徹底や輪作で発症リスクを減らし、発生が見られるほ場は最後に収穫するなどして、病原菌の蔓延を防止しましょう。